

第14回サントリー音楽賞
指揮者の^{とやまゆうぞう}外山雄三氏に決定
— 特別賞は原清氏 —

わが国の洋楽の発展、向上に最も寄与した日本人に贈られる第14回（昭和57年度）サントリー音楽賞は3月1日、東京・赤坂のサントリービルで行なわれた最終選考会で、指揮者の外山雄三氏に決まりました。同氏には賞金300万円が贈られます。

また、日本初の大規模なクラシック音楽専用のコンサートホール「ザ・シンフォニーホール」の建設を推進した原清氏（ザ・シンフォニーホール建設グループ代表、朝日放送株式会社社長）が特別賞に選ばれました。特別賞の受賞は55年度の江戸英雄氏に次いで2人目となります。

贈賞式は4月28日、東京・丸の内の東京会館で行なわれます。

この日午前10時からの最終選考会には、芥川也寸志、宮沢縦一、吉田雅夫各氏ら10人の選考委員が出席。去る1月16日にサントリー音楽賞候補者としてノミネートされた栗國安彦、内田光子、外山雄三、林誠、林康子、原清各氏の6人を対象に選考を開始しました。一次選考で外山、原両氏の2人に絞られ、このあとさらに慎重な討議を重ねた結果、本賞に外山氏、特別賞に原氏を選ぶことで全員の意見が一致、引き続き開かれた理事会で正式に承認されました。

外山氏の受賞理由は、N響が昨年3月、尾高賞創立30周年を記念して行なった、現代日本のオーケストラ作品のみによる定期演奏会で、16曲のすべてを指揮し、完成度の高い演奏を実現させたこと、名古屋フィルの音楽総監督、常任指揮者としてコンサートを通じて地域社会に密着した活動をしたこと、作曲家としては「まつら」を発表し、熟達した表現技法を示したこと — などによるものです。

外山氏は、昭和6年生まれ。昭和27年東京芸術大学卒業後、NHK交響楽団指揮者に就任、35年、39年、41年のN響海外演奏旅行に同行、ソ連を含む欧米各国で指揮し、成功を収めました。また作曲家としても高く評価されており、芸大在学中に毎日新聞・NHK共催音楽コンクール作曲部門に入賞、38年に「ヴァイオリン協奏曲」第1番で第12回尾高賞を受賞しました。現在はN響正指揮者、名古屋フィルハーモニー交響楽団音楽総監督兼常任指揮者、大阪フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者。

また、原氏は、昨年10月大阪にオープンした「ザ・シンフォニーホール」の建設事業を多くの困難を乗り越えて推進した功績が認められたものです。

原清氏は、明治40年生まれ。昭和5年関西学院卒業、朝日新聞社大阪本社を経て、現

在朝日放送株式会社社長。

受賞の知らせを聞いて記者発表会場に駆けつけた外山氏は「大変光栄です。本来なら私よりN響、あるいは日本のオーケストラ全体がいただく賞だと思っています」と、ひかえめに喜びを語りました。

以 上